

[参考事項]

成果情報名：リンゴ新品種「秋田19号」の特性

研究機関名 果樹試験場品種開発部

担当者 照井 真・上田仁悦・他8名

[要約]

リンゴ新品種「秋田19号」は、10月下旬～11月中旬に収穫できる晩生種で、果重は200～250g、果皮色は黄色である。みつ入りと食味に優れ、デリシャス系品種に似た芳香がある。普通冷蔵で翌年4月末までみつ入りを残したまま貯蔵できる。

[キーワード]

リンゴ・育種・秋田19号・みつ入り・芳香

[普及参考対象範囲]

県内リンゴ栽培地域

[ねらい]

リンゴ新品種「秋田19号」は、みつ入りや食味など他にはない特徴を持ち、次世代のリンゴ育種親(遺伝資源)として品種登録したが、県内オリジナル品種としてニッチな生産も期待できる。

[成果の内容及び特徴]

- 1 「秋田19号」は、昭和63年に秋田2号(「ふじ」×「東光」)×「やたか」の組み合わせで獲得した種子から育成し、平成31年4月23日付けで品種登録されたリンゴ新品種である。
- 2 開花期は、「ふじ」と同時期である。ただし、S遺伝子型は S_1S_9 で、「ふじ」と同型であるため、「ふじ」に対する受粉樹としては利用できない。
- 3 果実の大きさは200～250g、果皮色は黄色で果面にくすみが見られるなど外観は劣る(図1)。食味は甘みが強く、みつ入りが多い(図2、表1)。また、デリシャス系に近い芳香がある。
- 4 収穫始期の目安は満開175日後(県南部で10月25日頃)で、果肉の軟化や収穫前落果がないため11月中旬まで収穫可能である。また、普通冷蔵でみつ入りを残したまま粉質化せずに4月末まで貯蔵できる(表2)。
- 5 ビターピットや裂果、つる割れの発生はみられない。油あがりの発生は、「ふじ」と同程度に少なく、心かびの発生も少ない(「ふじ」より少ない)。また、通常防除下で問題となる病害虫の発生はない。

[成果の活用上の留意点]

- 1 満開後日数を満たしても、緑色の強い果実はみつ入りが少ない傾向があるため、果皮色が黄色となり、がくあ部が透けたように見える果実を収穫する。
- 2 果重が250gを超えると、本品種の特性(食味、香気、みつ入り)が弱くなり、貯蔵性も低下するため、200～250g程度の果実を目標に管理する。
- 3 外観不良は有袋栽培で改善できるが、香気と糖度が低下する。

[具体的なデータ等]



図1 「秋田19号」果実の外観



図2 「秋田19号」のみつ入り

表1 「秋田19号」の果実品質(2018～20年)

調査年	収穫日	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	地色 (1-8)	みつ入り (0-4)	デンプン (0-5)
2018	11月13日	232	16.7	14.4	0.29	6.0	2.8	0.1
2019	11月11日	278	16.7	14.1	0.26	5.3	3.4	0.2
2020	11月12日	257	15.6	14.0	0.27	5.7	4.0	0.8

供試樹：「秋田19号」/実生/JM7、2018年時高接ぎ3年生

地色：「王林」用カラーチャートにより指数化

みつ入り：みつ入りの程度を無(0)～多(4)の5段階で評価

デンプン：よう素ヨードカリ液で染色無(0)～完全染色(5)で評価

表2 「秋田19号」の貯蔵性(2015年)

調査日	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	地色 (1-8)	みつ入り (0-4)	デンプン (0-5)
11月9日	251	13.8	14.8	0.26	5.4	2.2	0.1
翌年2月25日	236	12.1	14.3	0.16	5.8	1.2	0.6
翌年3月25日	245	11.0	14.4	0.15	6.0	1.9	0.0
翌年4月25日	247	10.3	14.8	0.10	6.0	1.5	0.0

2015年11月9日に、「秋田19号」/M.9樹から果実を収穫し、2℃で冷蔵した
地色、みつ入り、デンプン；表1に同じ

[その他]

研究課題名：果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜

研究期間：昭和63年度～令和元年度

予算区分：県単

掲載誌等：秋田県果樹試験場研究報告第30号(2021)